

製品安全データシート

2008 年 4 月 1 日 作成

1. 製品及び会社情報

商品名 : アセトン

会社名 札幌工業薬品製造所 (有) 藤本薬品

住所 札幌市中央区北 1 条西 27 丁目 4 - 22

電話番号 (011) 621-1906

FAX 番号 (011) 621-5035

緊急連絡先 (有) 藤本薬品 電話番号 (011) 621-1906

2. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	単一製品
毒物及び劇物取締法	非該当
化学名又は慣用名	アセトン、ジメチルケトン、2 - プロパノン
含有量	純度 99.5%以上
化学式又は構造式	CH_3COCH_3
既存化学物質番号	(1) - 410
CAS No.	67 - 64 - 1

3. 危険有害性の要約

分類名称 : 引火性液体、急性毒性物質

危険性 : 引火しやすい液体で、その蒸気は空気と一定の割合で混合すると爆発性混合ガスをつくる。

有害性 : 液体に触れると皮膚の脱脂作用があり、蒸気を吸い込むと有機溶剤中毒を起こす恐れがある。
液体や蒸気に接触すると目、鼻、喉等の呼吸器官や皮膚を刺激し炎症を起こす恐れがある。

環境影響 : この物質は、動植物、鳥類、昆虫、水棲生物、微生物等に何らかの影響を与える可能性がある。
この物質は、自然環境や水質系にとって有害であり悪影響を及ぼす可能性がある。水に対して特に注意すること。

4. 応急措置

眼に入った場合： 直ちに多量の水で 15 分以上洗う。瞼の裏まで洗う。

速やかに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合： 付着物を布等ですぐに拭き取る。

多量の水で洗い落とす。

外観に変化が見られたり痛みがある場合は

医師の診断を受ける。

吸入した場合： 直ちに空気の新鮮な場所に移し、保温し安静にする。

呼吸停止及び呼吸が弱い場合は人工呼吸を行う。

呼吸困難な場合は酸素吸入を行う。

気分が悪くなった場合は医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合： 水かぬるま湯で口をすすぐ程度にする。

無理に吐かせないこと。

安静にして速やかに医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

消化剤： 粉末消化剤、泡消化剤、炭酸ガス、ハロゲン化物など

消火方法： 耐熱性着衣や保護眼鏡等を着用する。

水を消火目的に使用してはならない。

可燃性の物を安全な場所に移す。

消火活動は風上から行う。

6. 漏出時の措置

- ・作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
- ・漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・乾燥砂、土、その他の不燃物の物に吸着させて回収する。
- ・大量に流出した場合には、土砂やオイルフェンス等で流れを止め安全な場所に導いて回収する。
- ・揮発性液体なので、屋内では窓を開けるなどして、換気に注意する。
- ・付近の着火源、高温体及び可燃物を取り除き、着火した場合に備え、適切な消化器を準備する。
- ・衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて作業する。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

- ・ 保護手袋、保護眼鏡、保護マスク等を着用し、出来る限り皮膚に触れないようにする。
- ・ 換気の良い場所で取り扱う。
- ・ 周囲で火気、火花やアークを発生する物、高温熱源を使用しない。
- ・ 容器はその都度密閉し、蒸気の発生を抑える。
- ・ 静電気対策のため、帯電防止型の作業服、靴を着用する。

保管

- ・ 出来るだけ涼しく直射日光の当たらない場所に保管する。
- ・ 高温熱源や火気を遠ざけて、換気の良い場所に保管する。
- ・ 密閉式の容器を使用する。
- ・ 盗難防止の措置を施す。

8. 曝露防止及び保護措置

管理濃度	750ppm
許容濃度	200ppm～500ppm

設備対策	取り扱い作業場所には局所排気装置を設ける。 電気設備や照明器具類は防爆構造の物を使用する。 液体輸送、汲み取り、攪拌等の装置はアースをする。 タンク内部等の密閉場所で作業をする場合は、底部まで換気が出る装置を取り付けること。
------	---

保護具	呼吸用 - 有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気・酸素呼吸器など 顔面用 - 保護眼鏡（飛散防止型、ゴーグル型）、顔面シールドなど 皮膚用 - 耐溶剤性保護手袋（ポリウレタン系やラテックス等の材質の物） 不浸透性保護前掛など
-----	--

9. 物理的及び化学的性質

- ・外観等 : 無色透明または微黄色透明液体
- ・臭気 : ケトン臭
- ・蒸気圧 : 24.2 kPa (20℃)
- ・沸点 : 56.5 °C
- ・融点 : -95 °C
- ・密度(比重) : 0.792 (20℃)
- ・引火点 : -18 °C (タグ密閉式)
- ・発火点 : 465 °C
- ・爆発限界 : 下限 2.6 vol.%
上限 12.8 vol.%

10. 安定性及び反応性

- ・爆発性 常温で蒸気を発散し空気と一定の割合で混合すると爆発性混合ガスをつくる。
- ・反応性 強酸や強酸化剤などと混合すると、化学反応して発熱や爆発の危険性がある。
- ・安定性 通常状態では安定である。長期間保存した場合、製品が劣化する。

11. 有害性情報

- ・中毒症状 : TCL0 500ppm (眼の刺激) ~12,000ppm (中枢神経抑制)
: ヒトの多量吸入による急性中毒の症状は、眼、喉の刺激、不安感、頭痛、吐き気、知覚麻酔、血圧低下、呼吸速度の上昇と不規則化が報告されている。
: 経口で 200ml ほど摂取したヒトの症状は、30 分後に昏迷状態、頬の紅潮が現れ、呼吸が浅くなり昏睡状態に陥ったが、治療により回復した。
: 最小影響量 2min~4hr 250~900ppm (鼻、喉、器官等への刺激)
- ・皮膚腐食性 : 皮膚炎及び脱脂をおこす。
- ・その他 : アルコール飲料の使用により有害作用が増大する。
: 吸入、経皮、経口摂取により体内に吸収されることがある。
: 飲み込むと、肺に吸収されて化学性肺炎の危険を伴うことがある。

12. 廃棄上の注意

- : 中身を密閉式の焼却炉で燃やすと爆発の危険性があるので絶対に焼却しない。
- : 中身を燃やすと有害なガスを発生する恐れがあるので絶対に焼却しない。
- : 中身は特別管理産業廃棄物に該当するので、産業廃棄物取締法に基づき所定の手続きを踏まえた上で、専門の産業廃棄物処理業者に委託して廃棄処理する。
- : 容器は、中身を空にして、缶内部を完全に乾かしてから廃棄処理する。
- : 中身を排水口や下水等に流したり、山林や河川、海などへの不法廃棄は絶対にしない。